

活動報告

二〇二〇年度深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト活動報告

弘前大学人文社会科学部 原 克昭

はじめに

二〇一七年の調査開始以来、四年目を迎えた深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトは、未曾有の社会情勢の渦中であって、研究調査の継続展開、オンラインによるフォーラム開催、県文化財指定申請、そして報告書第三集の刊行にまで漕ぎ着けた。新型コロナウイルスの全国的な感染拡大に伴い、学内外を問わず各所各種のイベントや催し物が延期もしくは中止を余儀なくされる中、深浦円覚寺古典籍保存調査活動が再開・継続できたことは、ひとえに円覚寺ならびに深浦町の方々をはじめとする関係者各位の御理解と御支援があつてのことである。まさしく、持続可能な地域社会への貢献活動の一環として、本プロジェクトの有する事業的意義と強靱な磁場力が再確認されたところでもある。

とりわけて本年度は、県文化財指定申請にむけた悉皆調査と目録整理を推進させ、全二一三五点におよぶ申請目録を完成することができた。以下は、全国的なコロナ禍にあつてもなお、継続発展を推進させた本プロジェクト事業における二〇二〇年一二月までの活動報告である。

一 深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトによる調査活動

昨年度の報告書・第二集刊行以降、二〇二〇年二月より一二月にかけて、深浦円覚寺所蔵古典籍保存調査活動は、深浦町役場・深浦町教育委

員会より調査会場と日程提供の協力を得て、都合七回実施された。調査概要は次の通りである。

① 「二〇一九年度・第一回調査（通算二五回）」

二〇二〇年二月一六日（日）～一八日（火）

（於）深浦町役場・一階町民ホール

報告書・第二集（二〇二〇年二月）の刊行後の継続調査として、青森県文化財指定申請を具体目標に設定し、尊岸・尊海・義観・観海の各歴代函のデータ整理と写真撮影、印信函の再整理を中心に実施した。

今回の調査には、弘前大学の教員・学生からなる定期メンバー、および継続いただいている深浦町民の参加に加えて、木造高校深浦校舎在学の高校一年生・三名が調査体験に参加し、町民・学生から調査方策のレクチャーを受けた。思い返せば、全国的なコロナ禍以前にあつて、大学教員・学生と地域町民そして地元高校生が協働参加する「青森モデル」が実現された大変にぎやかで和気藹々とした調査風景であつた。

② 「二〇一九年度・第二回調査（通算二六回）」

二〇二〇年三月六日（日）～九日（月）

（於）深浦町役場・一階町民ホール

前回に引き続き、次年度の県文化財指定申請にむけた調査を継続した。今回は、深浦町関係および弘前大学教員の定期メンバーに加え、日本史の武井紀子教員も参加して、歴代函ならびに未整理函を中心に書誌カード採取・データ整理・写真撮影を行った。県文化財指定申請を予定している各函につき一通り確認することができた。

③ 「二〇二〇年度・第一回調査（通算二七回）」

二〇二〇年八月一八日（火）～二一日（金）

(於) 深浦町役場・一階町民ホール

二〇二〇年度前期は、新型コロナウイルス感染拡大に見舞われ、当該期間中の調査活動は控えざるをえなかった。八月に入ってようやく調査再開となったが、大学における課外活動方針を遵守し、爾後の学生参加は見送ることとなった。なお、本プロジェクト事業の立ち上げから携わっている渡辺麻里子教員は、本年度四月より大正大学へと転出異動したことから、引き続き外部研究者として東京から出張参加することとなった。また、本学卒業生で積極的に調査参加している高校教員の藤林美帆さんは、四月より木造高校深浦校舎から黒石高校への異動となったが、さっそく黒石高校の主任教員である柘植先生(数学科)の視察参加を取り付け、新たな高校からの連携参加を促進させる萌芽的機会となった。さらに、深浦町教育委員会の草創文人教育長が来訪され、御挨拶等々、本プロジェクト調査の意義について解説した。

従来の調査と並行して、青森県文化財保護審議会委員の福井敏隆先生・藤田俊雄先生、県職員の伊藤由美子さんが参加し、文化財指定申請にむけた打ち合わせ、および合同予備調査を実施した。

また、一月一日に開催予定の成果報告会(フォーラム)の方策につき関係者間で打ち合わせを行った。Z o o m仕様によるオンライン開催を基調として、弘前大学・深浦町役場にパブリックビューイング会場を併設、さらに東京在住の特別講師(東京大学名誉教授・末木文美士先生)の講演については、渡辺先生が陪席して東京・大正大学から発信する形式で準備を進めることとした。

④ [二〇二〇年度・第二回調査(通算二八回)]

二〇二〇年九月二〇日(日)～二三日(水)

(於) 深浦町役場・一階町民ホール

前回に引き続き、青森県文化財指定に係る目録作成に従事した。今回は、学内教員・渡辺先生・青森県文化財保護審議会委員の先生方に

加え、外部研究者として小口雅史先生(法政大学教授)にご参加いただいた。当該目録については、分類された函ごとの目録データを作成し、暫定版目録を完成させた。また、深浦フォーラムにむけて、報告テーマの全体方針を調整し、報告者各自のテーマに関する資料選定を行った。

⑤ [二〇二〇年度・第三回調査(通算二九回)]

二〇二〇年一〇月四日(土)～五日(日)

(於) 深浦町役場・一階町民ホール

深浦フォーラム報告準備として、尾崎名津子教員による単独調査を実施した。海浦義観の活動に関する資料を中心に、報告テーマに関する資料収集・書誌調査・写真撮影を行い、報告内容の具体化を進めた。

⑥ [二〇二〇年度・第四回調査(通算三〇回)]

二〇二〇年一〇月一八日(日)～一九日(月)

(於) 深浦町役場・三階監査室

引き続き、県文化財指定申請にむけた目録作成と並行して、フォーラム報告にむけた準備調査を実施した。文化財指定申請準備に関しては、前回に作成した暫定版目録の不備や修正点を確認・補訂した。また、円覚寺・海浦由羽子さんによる「深浦円覚寺所蔵古典籍・古文書による津軽寺社の歴代住持・宮司一覧表」草稿を拝受し、報告書掲載にむけた加筆修正を行った。また、フォーラム準備として、Z o o mによるオンライン環境を試行し、本学社会連携課の花田昌吾さんと電話で入念な打ち合わせを行った。

⑦ [二〇二〇年度・第五回調査(通算三一回)]

二〇二〇年二月五日(土)～七日(月)

(於) 深浦町役場・一階町民ホール・三階監査室

青森県の文化財指定に係る目録作成にむけた最終的な合同調査を実施

した。当該目録と現物の照合を行い、必要事項につき加筆修正を施した。また、当該目録について、新たに加えられた九函分の追加資料を中心に、書誌目録の作成とデータ入力を重点的に実施した。既存の目録を増補する形で再整備し、増補提出版を完成させた。目録の総点数および内訳は、以下の通りである。

*総点数二二三五点

- | | | | |
|----------|------|--------------|------|
| ① 中世資料 | 一四一点 | ② 修験道・歴代関係資料 | 九一九点 |
| ③ 印信類 | 二八六点 | ④ 諸師関係資料 | 五八一点 |
| ⑤ 金比羅堂資料 | 四四点 | ⑥ 朝鮮本関係資料 | 一六四点 |

如上、あいにく本年度は積極的な地域町民や学生による参加は限定された調査現場となった。それでもなお、「古典籍調査マイスター一級」である深浦町民の佐藤英文さん・英子さん御夫妻の参加、毎回の調査ごとに東京から出張参加した渡辺先生の機動力、そして円覚寺および深浦町の盤石な連携協力体制のもとに、調査活動を継続させることができた。改めて深謝申し上げるとともに、ふたたび大学教員・学生と地域町民・高校生が一堂に会して協働調査できる日を、ひたすら待望するばかりである。

二 二〇二〇年度深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会 (オンラインによるフォーラム)の開催

二〇二〇年十一月一日(日) 一三時～一六時、Zoomによるオンライン形式で開催した。

本フォーラムは、二〇二〇年度深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会とともに、深浦町と本学が連携して実施している弘前大学深浦エコサテライトキャンパス令和二年度特別公開講座であり、本年度で三回目の開催となる。

昨年度の弘前大学八甲田ホール開催が非常に好評を博したことから、本年度は当初、日本思想史・宗教史研究を領導する末木文美士先生(東京大学名誉教授・国際日本文化研究センター名誉教授)を弘前の地へお招きし、幕末明治期という激動の時代に焦点を当てたテーマのもと、弘前大学みちのくホールを会場とする大規模なフォーラムを企画していたが、今般の社会情勢に鑑みて、やむなくZoomによるオンライン開催へと切り替えることとした。この変更の際には、末木先生には御無理をお願いすることとなったが、オンライン開催による講演を御快諾いただいた。

開催方策としては、学内関係者は弘前大学から、深浦町長および円覚寺副住職の挨拶は深浦町役場から、そして特別講師をお願いした末木先生と渡辺先生は東京大正大学から、それぞれ相互に配信することで、弘前大学・深浦町・東京をオンラインでつなぐ「もうひとつの地域連携発信型」と銘打って、少なからずライブ感の味わえるようなオンライン開催を模索した次第である。

そして、今回のフォーラム開催の告知にあたっては、ポスター・チラシ(本報告書の巻末に掲載)に、以下の開催趣旨を開示して視聴参加を呼びかけた。

本プロジェクトによる深浦円覚寺の古典籍保存調査活動を通して、津軽地域一円の仏教文化圏が徐々にあぶりだされてきました。第3回目となる本フォーラムでは、幕末から明治期にかけての激動の時代における宗教文化の近代化と津軽仏教圏の展開というエポックに焦点をあててみます。調査報告とあわせて、特別講演として日本思想史研究をリードする末木文美士先生に、近代化する明治期の仏教圏とそれをとりまく近代知識人たちの文化環境についてお話しいただきます。Web開催により弘前大学・深浦町・東京をオンラインでつなぐ「もうひとつの地域連携発信型」の新たな試みに、みなさんも参加してみませんか。

例年通り、主催は、深浦町・弘前大学・深浦町教育委員会・弘前大学

人文社会科学部地域未来創生センターが行い、弘前市・東奥日報社・陸奥新報社の後援を仰いだ。また、引き続き本年度も、公益財団法人青森学術文化振興財団より「地域の振興に係る研究事業（チャレンジ枠）」の助成を受けて実施した。

当日のプログラムは、以下の通りである。

一三時分 開会の辞 深浦町長 吉田満

(深浦町より映像提供)

一三時五分 ご挨拶 円覚寺副住職 海浦誠観

(深浦町より映像提供)

一三時一〇分〜一三時三〇分

〔報告1〕 深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトの意義と現況

大正大学教授・前弘前大学人文社会科学部教授 渡辺麻里子

(東京・大正大学より配信)

一三時三〇分〜一四時〇分

〔報告2〕 中近世と近代をつなぐ宗教資料と知の位相

——《神道関係資料》を中心に——

弘前大学人文社会科学部准教授 原克昭

(弘前大学より配信)

一四時〇分〜一四時三〇分

〔報告3〕 海浦義観と津軽の近代

弘前大学人文社会科学部准教授 尾崎名津子

(弘前大学より配信)

一四時四〇分〜一五時四五分

〔特別講演〕 明治の仏教——真言宗を中心として——

東京大学名誉教授・国際日本文化研究センター名誉教授

末木文美士先生

一五時四五分

閉会の辞 弘前大学理事(社会連携担当)

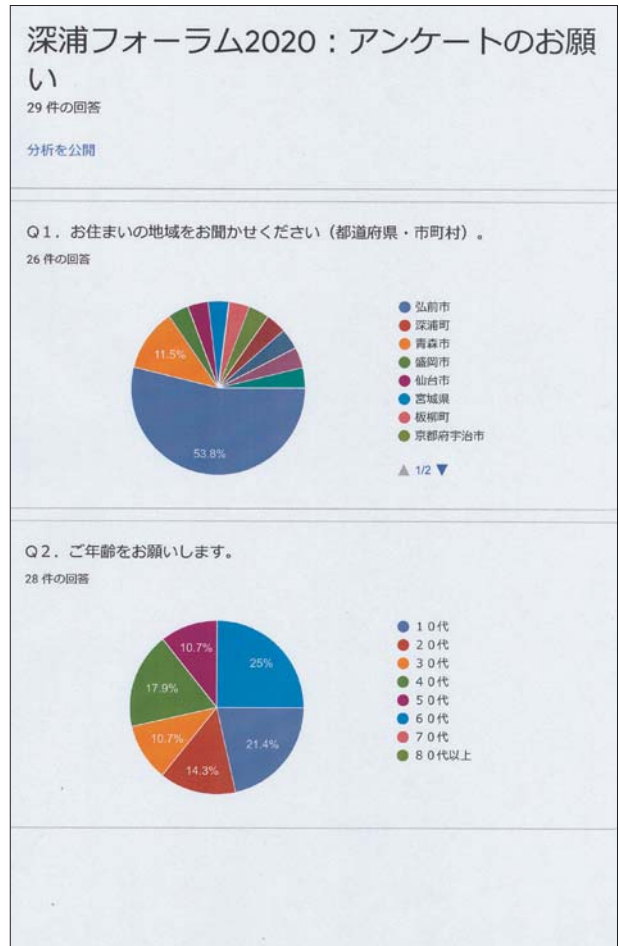
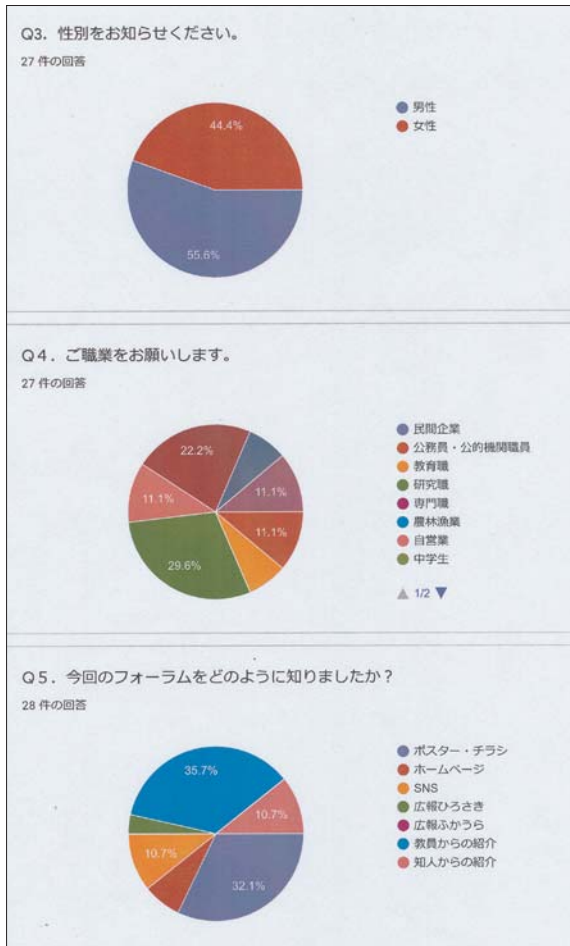
石川 隆洋

一五時五〇分 閉会

(弘前大学より配信)

オンライン視聴参加とあわせて、弘前大学人文社会科学部多目的ホールおよび深浦町役場内に定員制パブリックビューイング会場を設定して告知した。残念ながら当時の県内感染状況と感染防止対策から、パブリックビューイング会場については中止とせざるをえなくなり、予約をいただいていた市民の来場参加は叶わなかった。しかし、あらかじめチラシにその旨を明記したことから、社会連携事業としての危機管理の観点においては、支障をきたすことなく円滑に開催できたのは大禍の中の小確幸であった。視聴参加者は、事前申込みに加えて、直前での参加申込みや私的な視聴会場を設定してくださったことなどもあり、一般の方々、学内外の関係者および国内各所さらには海外の研究者など、約七〇名余りの参加を得ることができた。もとより会場での開催規模には及ばないが、学内においても比較的早期段階での三元中継によるオンライン開催の試みとして、一つの成果と挙げたといえるかもしれない。

なお、例年はフォーラム開催後、参加者からの紙面によるアンケートを実施していたが、今回はオンライン開催という環境上、Formsを活用したWEBアンケートの協力をお願いした。紙面アンケートほどの回答率は得られなかったが、末木先生による講演をはじめ報告内容に対するコメントに加えて、オンライン開催についての反響を少なからずいただくことができた。WEBアンケート結果は、以下の通りである(有効回答数・二九件・約四〇%)。



・ 貴重な講演を聞くことができてよかった。

・ 「明治の仏教」の話は聞きたいテーマであったので聞くことができてよかった。

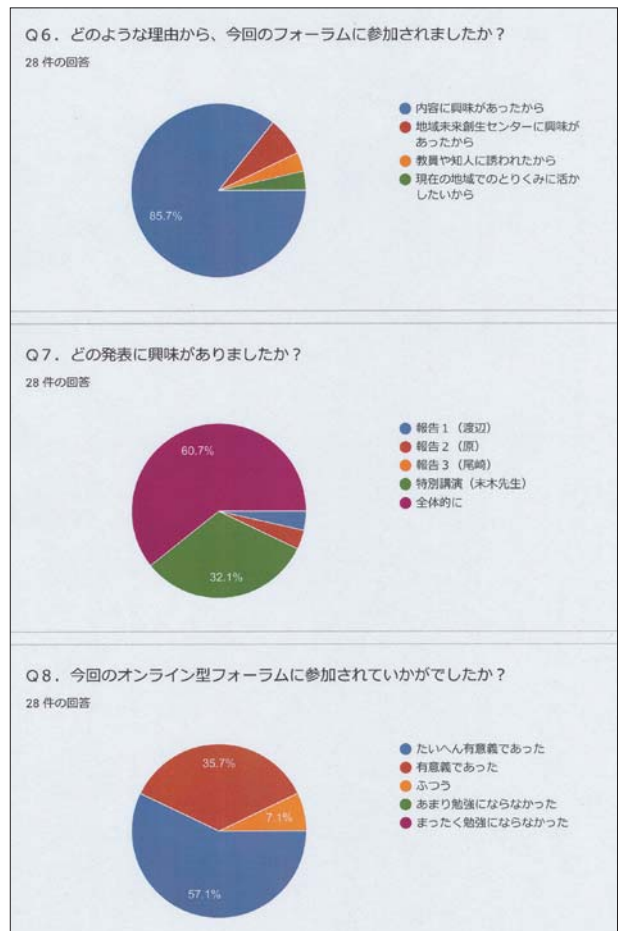
・ 今回はこのような機会を設けていただきありがとうございます。大変興味を持ちました。自分でも実際に観に行ってみようと思います。

・ オンラインになったことにより、広い地域から参加できるようになり、よかったと思います。またこれからもこうした柔軟な形で研究会を開いていただければ、参加しやすいと思います。

・ オンライン開催となり、ご準備大変だったことと思います。視聴もスムーズで、大変勉強になりました。

・ パソコン操作はほかのところでもやれると思います。

Q9. 今回のフォーラムについて、「意見・感想をお聞かせください。」



- ・宗教的、特に仏教の視点で歴史を見ることに改めて興味を抱きました。
- ・今回は途中からしかみれませんでしたが大変勉強になりました。次回はしっかりとみてより多く学べたらと思います。
- ・難しいところもありましたが、とても面白かったです。特に、海浦さんの人物像について興味をもちました。本日は本当にありがとうございました。
- ・義観さんはとても面白い方ですね。深浦をぜひ訪ねてみたいと思います。
- ・とても内容の充実したフォーラムで、来年も開催してほしい。末木先生の資料のように、弘前大学の先生の資料も事前配布してほしい。今でも、弘前大学の三人の先生方の資料が欲しいので、メールで頂きたい。
- ・オンライン開催はご準備が大変だったと思いますが、様々な角度からのご報告は大変勉強になりました。
- ・大変勉強になりました。ただ、原先生のレジュメが閲覧できず、ともにダウンロードできなかったのが残念です。
- ・このようなオンラインの講演を今後も継続してほしい。
- ・地元の研究についての関心を深められて大変有意義でした。ありがとうございます。
- ・開催前日に参加を申し込んだにもかかわらず対応していただきありがとうございました。所用が入り、結局、記念講演の途中からの参加でしたが目が開かれたような内容でした。
- ・渡辺先生はじめ関係者の皆様には大変お疲れ様でした。このような開催も、準備は大変かと思いますが、ひよっとしたら、この方が参加しやすい方もおられるような気がします。ノウハウを蓄積していっていくことも会の役割かもしれません。
- ・コロナ禍のなか、開催した事務局に敬意を表します。ただ、一方通行に終わったのは残念でした。

・質疑応答の時間が欲しかった。

・オンラインで開催いただいたおかげで参加できたので、ありがたかったです。

Q10. 今後とりあげてほしいテーマなどありましたら、お聞かせください。

・幕末期の弘前藩の役割や動向について、北方警備や奥羽越列藩同盟の際の駆け引きなど

・過去の災害の記録（藩庁日記などの資料）、遺構・慰霊碑等に関する内容
 ・津軽の真言宗のほか、天台宗や曹洞宗、とくに浄土宗の金光上人も取り上げてほしい。仏教寺院の全体を捉えて欲しい。また、修験と仏教として、津軽の役小角、役行者の伝説や伝承も紹介してほしい。明治にはいって、修験者は、神社の神官へ変化せざるを得なかった理由などもテーマにしてほしい。

・弘前と諸外国のつながり（貿易、文化交流など）について

・春光山円覚寺の古文書・古典籍調査も進んだとのことなので、あらためて永村眞先生のお話を伺いたい。

・WEBハイブリッド講演会の継続をお願い致します。

・特にありませんが、発信される情報に注意して、興味深いものには積極的に参加したいと思います。

・大学生によるくずし字講座や文献調査のノウハウなど

本年度は会場でのフォーラム開催は実現できなかったが、それを惜しむ声は各所より頂戴した。かたや、オンライン開催に切替えたことで、リモート視聴参加が可能となったという声もいただいている。

結果として、弘前・深浦・東京をオンラインでつなぐ「もうひとつの地域連携発信型」を提唱・実践する機会となったことは確かであろう。今後の新たな地域連携発信型を再構築するための参考としてゆきたい。

なお、本年度フォーラムのオンライン開催にあたっては、深浦町では円覚寺および深浦町役場、東京会場においては大正大学ならびに文学部

日本文学科助手の岩谷泰之さん、本学においては社会連携部社会連携課と人文社会科学部総務グループの実働的な協力を得られたからこそ、恙無く開催できたことに改めまして謝意を表します。

むすびに

新たな観光資源の開拓が重要課題である青森県内には、考古遺跡のみならず、貴重な宗教史関係の古籍籍・古文書・文献資料が数多く潜んでいる。そのような文献資料群を、新たな文化資源として発掘・再発見し、さらに高付加価値化することが求められている。

本学では、深浦町と連携協定を締結し、弘前大学深浦エコサテライトキャンパス開講をはじめ、様々な領域分野で地域のニーズに応じた社会連携を実践している。うち、本事業では、津軽地域における歴史文化振興事業の一環として、深浦町の古刹・春光山円覚寺に所蔵される古典籍資料群の調査研究に着手し、さらに公益財団法人青森学術文化振興財団の理解と助成を得て、新たな津軽青森地域の歴史文化資源、ひいては青森県を代表する文化観光資源へと展開させることをめざしてきた。

その目的は、円覚寺資料調査への市民や学生の協働調査参加という「青森モデル」の推進、フォーラムの開催・報告書の刊行・市民講座による研究成果の地域還元と情報共有など、青森県の歴史文化振興に文献資料調査という面から貢献するとともに、県外に向けては国内でも貴重な宗教史関係資料の存在を発信することに努めている。はたして、「青森モデル」による地域市民の調査参加や全国規模でのフォーラム開催は大きな反響を呼び、「歴史文化都市」としての「青森」に対するまなざしと関心度は徐々に高まりと拡がりを見せている。そのような過程にあって、調査研究じたいも円覚寺資料を青森県の文化財として指定申請する段階に至った。

今般の新型コロナウイルス感染症に伴う社会情勢を受けて、各種事業の延期や中止が相継ぐ中、本プロジェクト事業では地道な調査活動の継続

とオンライン型フォーラムの開催を実現することができた。それも、ひとえに本事業に対する地域の理解とニーズに支えられたからにほかならず、その需要に応えうるだけの事業的意義を再認識できたことは特筆すべきところであろう。

まずは逸早い社会環境の回復を祈念するとともに、本年度は実施できなかった各種事業の新規再開と新たな地域連携発信型の再構築をめざして、本プロジェクトはさらに走り続けてゆくことを期してむすびとしたい。

【調査に参加したみなさん】敬称略、順不同（二〇二〇年二月～三月）

- ◇弘前大学（教員）
 - ・尾崎名津子・武井紀子・原克昭・渡辺麻里子（三月まで）
- ◇弘前大学（学生）
 - ・田村優希・渋谷ひな乃
- ◇外部研究者
 - ・小口雅史・渡辺麻里子（四月より）
- ◇青森県文化財保護審議会委員
 - ・福井敏隆・藤田俊雄
- ◇青森県教育庁文化財保護課
 - ・伊藤由美子
- ◇深浦町役場
 - ・伊東信 他
- ◇青森県教員
 - ・藤林美帆・柘植武夫
- ◇木造高校深浦校舎（一年生）
 - ・木村峻生・渋谷栞・山本依吹
- ◇深浦町民
 - ・佐藤英文・佐藤英子・須藤のぶ子・七戸暁・海浦由羽子